

西宮市協働事業提案手続（未来づくりパートナー事業）について

1 制度概要

「西宮市参画と協働の推進に関する条例」第 15 条に規定。平成 21 年度から制度開始。市内で活動する団体から、市と協働して実施する事業、又は、市から資金的なサポートを受けて実施する事業を募集し、協働事業提案審査会での審査結果を踏まえて採択の可否を決定する。

(1) 提案できる団体

市内に事務所又は活動場所を有する非営利活動団体（NPO 等団体、ボランティア団体、地域活動団体など）。

(2) 募集区分

募集区分	概 要	助成金	助成割合	期間 (最長)
自由提案型	団体が、自由な発案により企画・提案した事業（市の総合計画に沿ったもの）を市と協働して実施するもの	30 万円	80%	3 年
テーマ設定型	市が設定するテーマに沿った事業を団体が企画・提案し、市と協働して実施するもの		50～ 100%	単年
地域力向上型	地域活動団体が、地域課題の解決等につながる事業を企画・提案・実施し、市が資金面でのサポートを行うもの	10 万円	80%	3 年
コロナ課題 解決型	団体が、コロナ禍で生じた地域課題等の解決につながる事業を企画・提案・実施し、市が資金面でのサポートを行うもの	30 万円	80%	3 年

※特定の個人や団体のみが利益を受けるもの、親睦会的なイベント、施設等の建設や整備を目的とするもの、備品等の取得を主な目的とするものは対象外。

(3) 助成金

<対象経費> 提案事業の実施に直接要する以下の経費

費 目	内 容
報償費	外部講師・専門家等への謝金、一時的なボランティアスタッフへの謝礼等 ※団体構成員に対する謝金等は、原則として対象外。ただし、やむを得ない事情があると認められる場合は、助成対象経費とする。 ※事業費総額の 2 割、1 回あたりの謝金 1 万円を上限とする。
交通費	団体構成員等の事業実施場所までの交通費（公共交通機関の利用に限る）

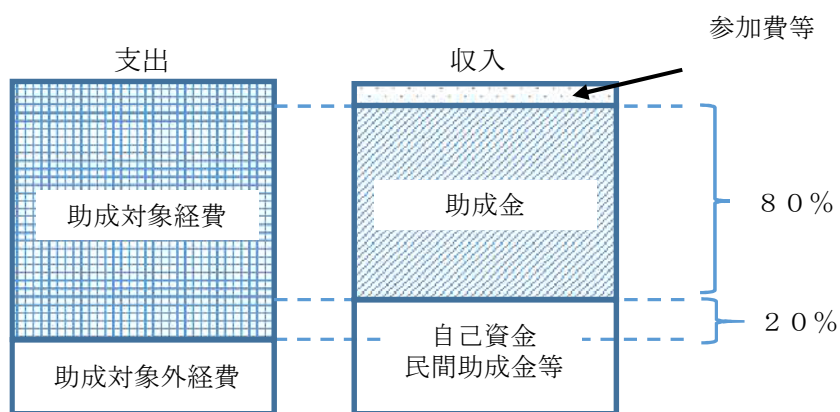
消耗品費	用具・文具類等の消耗品、資材等の購入費など
食糧費	講師のお茶、その他事業実施に必要な不可欠なもの
印刷製本費	チラシ・ポスター等の印刷代、資料のコピー代など
通信運搬費	チラシや資料の郵送料、運送料など
保険料	ボランティアスタッフやイベント参加者のための保険料など
手数料	振込手数料など
委託料	専門的知識や技術等を要する業務を外部委託するもの（会場設営等）
備品購入費	事業を実施するために必要な備品（数年にわたり使用できる1万円以上の物品。事業以外に転用できる家電製品等は除く。）の購入に係る費用 ※ 事業費総額の2割を上限とする。
使用料・賃借料	会場使用料、車両・機器等のレンタル料など
その他	その他市長が認めるもの

<対象外経費>

団体構成員に対する人件費、飲食費、団体構成員が関与している団体への外注費、事務所の賃借料・修繕料・光熱水費・電話通信費等の団体運営経費、領収書がないなど支出の根拠が確認できない経費、市長が不適切と判断した経費

<計算方法>

助成額 = (助成対象経費 - 事業実施に係る収入額(参加費等)) × 助成割合



※事業の実施に伴い発生する参加費収入を助成対象経費から差し引いた数字に助成割合を乗じて助成金額を算出する。参加費収入は自己資金部分に充てることができない。

2 提案募集から事業実施までの流れ（令和2年度の当初予定スケジュール）

項目	実施内容	時期
相談・提案書受付	市民協働推進課で相談及び提案書を受付	1月6日 ～2月7日
提案団体と市との協議	提案団体と提案内容に関係のある課が、事業の目的、内容、役割分担、協働の方法等について協議を行う。必要に応じて、事業内容の再検討や提案書類の修正を行う。	～2月下旬
一次審査(書類審査) 結果通知	一次審査の結果を提案団体に通知。	3月中旬
二次審査 (協働事業提案審査会)	提案団体によるプレゼンテーションと審査員による質疑を行う。その後、審査会において事業採択についての審査を行う。	3月30日
二次審査の結果通知	二次審査の結果を提案団体に通知。	4月中旬
事業化の検討 確認書の締結	提案団体と関係課が審査会意見を踏まえた詳細な打ち合わせを実施。協議が整えば確認書の締結を経て、事業を開始する。	4月下旬
事業の実施	事業実施における留意点は以下のとおり。 ・事業内容や実施方法の変更が必要な場合は事前に市民協働推進課へ相談すること。 ・チラシ等に「この事業は、西宮市未来づくりパートナー事業の助成を受けて実施します」の一文を入れること。 ・参加者アンケートを実施すること。	4月下旬～ 2月末
事業完了・実施報告	事業完了後、提案団体が事業報告書等の必要書類を作成の上、市民協働推進課に提出。事業内容の確認後、助成金の精算を行う。	事業完了後
報告書等の公表 評価委員会への出席	事業報告書を市のホームページ等で公表する。自由提案型とテーマ設定型の実施団体は、評価委員会に出席し、事後評価を受ける。	翌年度

3 参考資料

未来づくりパートナー事業報告書（令和2年度実施分）

室町時代のご当地曲 能「西宮」を謡おう！

能「西宮」を謡おう！実行委員会（関係課：文化振興課）

事業費 440,241 円

助成額 300,000 円

●当初の課題・事業目的

西宮市が「住み続けたい街」として永く市民に愛される街になるためには自分たちの街を再認識し地域への愛着や誇りを感じる事が大切であり、地域の文化や歴史に触れ現在から未来への意識を高める必要があるとの思いから、西宮をキーワードとした伝統文化や地域の歴史に親しみ知識を深める機会づくりを目的に開催しました。



代表 寺澤 幸祐

●事業概要

現在は上演されていない能の演目『西宮』をテーマとした「謡の練習会」と「講演・発表会」の全5回を実施。

【練習会】能楽師の指導で能『西宮』の謡を練習する体験型講座 [参加者数：4回延93名]

[1]令和2年12月12日(土)13時30分～西宮神社 [2]12月18日(金)17時30分～西宮神社

[3]12月24日(木)13時30分～廣田神社 [4]令和3年1月9日(土)13時30分～廣田神社

【講演・発表会】専門家による講演や朗読と謡でストーリーをたどる上演など能の演目や西宮について学ぶ機会とともに練習会参加者が能楽師とともに謡う成果発表の場としての催し

[参加者数：45名(練習会参加者24名、一般参加者15名、地域関係者6名)]

令和3年1月16日(土)1時30分開演 西宮市フレンテホール



●事業の成果・工夫した点

様々な環境の人が参加しやすいよう曜日や時間を変えた開催日時を設定し、希望回数での申込を可とした。そのため小学生とその保護者や現役世代、高齢層まで幅広い世代の参加があった。また講座が単調にならないよう能楽師の実演や関係者によるお話など練習以外に毎回学びや楽しめる時間を作ったことで追加申込も増え参加者の意欲向上につなげることができた。

●苦労した点・今後の課題

新型コロナウイルス感染症の影響で、実施について日々の相談、対策のための増員や想定外の準備など思わぬ負荷があった。また最終日は緊急事態宣言下となり、実施条件はクリアしていることと参加者の希望の声などにより実施を決めたが過度の告知は控えることとなり残念に思う。市政ニュース記事を見ての申込者も多く、ネットだけに頼らない幅広い告知の方法を今後も検討したい。

●代表者の感想

現行曲ではない能『西宮』をテーマとする事業であり、今年度は新型コロナウイルス感染症のことなど苦心するところも多くありましたが無事の終了を迎えられ、好評のコメントも多数頂き嬉しく思っています。能『西宮』により多くの方が親しんで頂けるよう検討を重ね活動していきたいと思っております。

もうひとつの両親学級～2人で子育て、みんなで子育て～

特特定非営利活動法人 a little

(関係課：男女共同参画推進課・地域保健課・子育て総合センター)

事業費 289,448 円

助成額 192,000 円

●当初の課題・事業目的

現代に至ってもジェンダー規範に縛られた子育てにより、互いの役割に縛られ、しんどさを抱えています。そのうえ核家族化などの社会背景や転勤族が多いという西宮の特色も重なり、孤独や困難を抱える家庭が多くいます。また、西宮市の行うマタニティ向けの講習などは平日に開催されており、仕事を持っている方には参加調整が難しいこともあります。さらに、日曜開催の両親学級はコロナ禍で中止中です。出産を控えた夫婦が共に学ぶことで、新しい家族の形をジェンダーに捕らわれることなく、共に子育てをスタートさせることが出来ます。同時に、地域に支援があることを知り、二人だけで乗り越えようとせず SOS を出して良いことを知ることで、児童虐待、DV、産後鬱を防止するためのものです。



理事長 さかぐち ゆうこ

●事業概要

2020年11月21日(土)10時～ 参加者8組(15名) 開催場所：男女共同参画センター ウェーブ

当初は会場内に準備した以下の7つのブースを2時間半かけて回ってもらう予定でしたが、コロナ対応で1時間半と時短を図り、3、4はオンラインにて対応し、6は実施しませんでした。去年と比べ時間配分に余裕がなく、忙しく回ってもらうことになりましたが、制限されることで工夫が生まれ、時間も経費も縮小できました。

1. バースプラン 産前産後の生活設計を立てます
2. マタニティフォト 生活設計を元に誓いの記念撮影をします
3. マタニティヨガ 夫婦でコミュニケーションを取りながら身体のほぐし方を学びます
4. 料理講座 男性→産前産後に合った食事を学びます 女性→交流タイム
5. 相談ブース 助産師・保健師・子育てコンシェルジュ・男女共同参画センター職員・a little スタッフが対応し、情報提供します
6. 子育て広場 移動児童館もしくは社協広場の出前広場
7. 展示 産前産後のお役立ち情報



●事業の成果・工夫した点

バースプランを二人で作成することで、課題を共有し、具体的な相談につなげられるようにしました。支援者と直接顔を合わせることで地域に多くの味方がいるという安心感を持ちお産に向かえるようにしました。アンケートの結果は平均90点を超え、不安が軽減したとすべての人が回答しました。その後サポートが必要な人は市のヘルパーも利用しています。各支援機関の違いも分かったと回答がありました。男女共同参画センターブースには多くの男性が座り、その後育児休暇を取得したと報告もありました。

●苦労した点・今後の課題

地域とのつながりのない妊婦へ情報を伝えるのは難しい上にコロナの影響で市の両親学級なども休止中で前回より広報ツールが減りました。その分今回は産院へのチラシ設置依頼をしたところ数件協力いただけ、申し込みの多くが産院でチラシを見た方でした。今回協力してくれた産院以外にも出産後に地域で暮らす家族支援への必要性を伝え、協力してくれる産院を増やしていくことが課題です。また感染対策の観点から大人数のイベントではなく各地域で小さく開催することの必要性が見えてきました。

●参加者のコメント

☆バースプランという形で、産後のことを考える時間を a little を通じて作ってもらいました。お誘いをもらったときは、いまいちどんなことを考えるのか、何が不安なのか、漠然としており必要性もいまひとつピンと来ていなかったのが実のところ。バースプランを立てるうちに、色々自分の中で解決できたり、夫ともバースプランをもとに話が出来ました。出産してから考えよう、としか言ってくれない夫にも、漠然とした不安ではなく、前もって具体的に話ができたことは本当に良かったです。ありがとうございました！

☆多くの母親、父親学級などが中止になる中、出産・育児に関する情報が得られる貴重な機会だった。

野菜作り体験とミカン狩りで地域を知る

段上自治会

事業費 129,607 円

助成額 88,000 円

●当初の課題・事業目的

宅地や人口の増加の割に自治会加入が増えないのが現状。

「若い層に期待される魅力ある自治会とは」を模索すべく、新しい事業として企画しました。多世代で集えて地域の事を知ってもらえる行事として、地域の畑で農家の方の指導のもと冬野菜の種まきから収穫までを体験し、地域のミカン畑でミカン狩りを楽しむことを通じて、地域への関心や愛情を深めることができるような企画になるよう心掛けました。



会長 安井 進治

●事業概要

対象者 段上自治会の会員及び地域に住まう方

事業内容 野菜作り体験（種まきから収穫まで）とミカン狩りで地域を知る

実施方法 9/26 自治会内に開催案内チラシを全戸配布とポスターを掲示

10/7 畑の整備・肥料入れ・畝づくり（役員で）

10/10 申込み受付 10/11 説明会を開催 10/18 種まき

10/31・11/14・11/28・12/12 水やりや間引きなど畑の世話 12/19 収穫とアンケート

12/21 収穫 その後は各自で適宜収穫を続ける 12/5 ミカン狩り

自治会内の畑を借りて、農家の方に種まきから収穫まで指導していただきました。



●事業の成果・工夫した点

天候に左右される行事の為、種まきから収穫まで予定通り進められるか不安でしたが、芽が出ただけで喜んでいたり、葉が少し大きいたくさんになったものを間引いて「サラダに入れて美味しかった」と感想が聞けたときはほっとしました。

水やりと泥落とし用に水路を利用せず、水を入れたポリタンクを準備しました。

●苦勞した点・今後の課題

雨天中止や畑の状態で延期などの連絡を、主に前日の夜に、参加者の選択で6家庭はグループライン、5家庭は携帯メール、2家庭は固定電話を利用し、また、スタッフはグループラインでそれぞれ連絡を取りました。種まきと追肥に参加できなかった家庭には連絡を取り、別日を設けました。

●代表者の感想

大人のアンケートでは「行事に参加して顔見知りが増えた」「野菜が育つ様子を子どもたちと見れて良かった」「知らなかった野菜の種が知れて勉強になった」、また、子どものアンケートでは「野菜が美味しかった」「水やりや肥料やりが楽しかった」などの意見があり、満足してもらえた。ケガなく天候にも恵まれ良かった。

スマホからアクセスできる自治会専用ホームページの開設による地域情報の発信と情報共有に必要な環境の整備と運用に必要な研修事業

上甲子園1丁目福祉会

事業費 128,516 円
助成額 100,000 円

●当初の課題・事業目的

地域住民の高齢化、共働きによる日中不在世帯の増加、マンション住民の増加等により、町会だより等紙媒体の回覧や掲示による従来型情報発信では、迅速かつ確実な情報伝達が年々難しくなっています。自治会活動の円滑な運営と活性化を図るには、地域住民に対する新たな情報発信と伝達の手段を導入し、地域住民の自治会活動に対する理解を深め、参加意識を高めることが必要不可欠な課題になっています。本事業の目的は、地域住民の自治会活動に対する理解を深め、自治会活動への参画を促進するために、自治会の新しい情報伝達手段としてホームページを使った情報環境を整備し、地域住民のあらゆる世代を対象に、必要な時に必要な情報（自治会、行政、各種団体等が発信する情報）に何時でも何処でも簡単にスマホを使ってアクセスできるようにすることにあります。



会長 松分 良雄

●事業概要

- ・対象者：上甲子園1丁目福祉会を構成するあらゆる世代の住民
- ・事業内容：スマホを使ってアクセスできる専用ホームページの開設と維持運営、およびホームページの利用促進活動。
- ・実施方法：福祉会が所有する集会所を拠点にした住民向け講習会の開催。
(ホームページを維持運営するために必要な人材育成を含む)
- ・独創性：当福祉会の情報だけでなく、西宮市の行政情報、春風公民館情報、社会福祉協議会情報、甲子園警察防犯情報等とリンクし、住民が福祉会専用ホームページを介して生活に必要な情報に簡単にアクセスできる環境を構築する。



●事業の成果・工夫した点

事業の成果として、新型コロナウイルス感染拡大の中①11月15日から正式HPの運用を当初計画通り開始できたこと②HP編集委員として、2名の新たな人材を確保できたこと。およびHPの運営を技術面からサポートいただく優秀な専門家を獲得できたこと③スマホ初心者に対する勉強会を開催し、日本社会のデジタル化の動きに合わせて高齢会員がスマホをマスターし利用する機会を提供できたこと④データを保管するサーバーについて、HP管理責任者が変わってもHPが安定して運用できるよう工夫したこと

●苦労した点・今後の課題

①HPの有用性について福祉会会員の理解が十分に得られ浸透するまで時間がかかるなと感じています。HP利用者を一人でも多く得るための継続的かつ不断のアイデア出しと会員ニーズの把握が今後も継続的な課題となっています。②新型コロナウイルス感染拡大下で福祉会行事の殆どが中止となる中、会員の関心が高いイベント関連情報の更新・充実が思うように図れず記事づくりに苦労しました。③会員の個人情報保護への取り組みが今後の課題。④会員のニーズに合ったHPコンテンツの開拓および記事の訴求力を高めるコンテンツづくりについて継続的な改善が必要です。

●責任者の感想

デジタル社会が進行する中で、高齢化する住民に対する自治会の福祉活動は、共助社会を維持するためにより重要性が増していると感じるものの、共助の一翼を担う自治会活動は後継者不足から存続の危機に立たされているのが現実です。住民の自治会活動に対する理解と参加意識を高めるには、地域住民のニーズに即して自治会活動の在り方を抜本的に見直す必要があると感じています。その第一歩として住民の日常生活に係わる地域情報の発信力強化と共有方法を抜本的に見直すこととしました。スマホからアクセスできる福祉会専用HP開設の取り組みは、その一歩であると考えています。また、西宮市と連携してHPを介して行政情報とワンストップで繋がる情報環境を整備・強化することが、西宮市の行政サービスの質を高める上でより重要になってくると考えています。

三世代に繋ぐ「阪神・淡路大震災」から学ぶ自主防災

仁川町2丁目自治会

事業費 226,665 円

助成額 100,000 円

●当初の課題・事業目的

[阪神淡路大震災]から四半世紀が経ち、当該地区も大きな被害を受け、当時を顧みる時、次世代に繋ぐ事が重要です。震災後発足した「自主防災組織」が機能して、住民の意識向上を図る事が大切です。

被害状況の写真、地域の復興状況、自主防災会の活動状況を目で見て、子供にも理解しやすい「写真パネル展示会」を実施します。又、地域版の冊子「自主防災組織について」を作成します。



会長 古川 健造

●事業概要

先ず、コロナ禍の中、当初予定していた「語り部」、「避難訓練」などは次年度以降に延期し、今回は「写真パネル展示会」に集約して、11月27日～29日に仁川駐輪場集会所で開催致しました。西宮市よりお借りした被害写真のコーナー、仁川町2丁目の被害と復興写真のコーナー、防災倉庫の資機材、AED（体外式除細動器）の展示コーナーに分けて展示しました。皆様には意識向上に貢献できたと思います。

開催に当たりオープニングセレモニーでは、仁川町2丁目で亡くなられたご遺族の方の参加も得て、「黙祷」から始まりました。又、ご遺族の方の体験談は衝撃でした。

参加人数は57名で内6家族8名のお子様連れでした。アンケート調査総数は36名で全員からイベントの満足の回答を得る事が出来ました。



●事業の成果・工夫した点

写真パネル展示会は被害写真、復興写真など50枚の写真を見る事で、大人の方、又、お子様にも分かり易かったと思います。

AEDの設置場所や開設時間等のパネル展示や消火栓のマッピング（冊子に掲載）も関心呼びました。作成した冊子は保存版として全戸に配布しました。

●苦勞した点・今後の課題

コロナ禍の中での開催で手指消毒、体温測定、マスクの着用、テーブルや筆記用具のアルコール消毒、又、3密を避けるなどの対策を取って実施しました。案内は回覧板（お子様同居世帯は配布）とし過度な動員は避けました。

次年度は関心の高い防災訓練を実施（指定避難所への避難訓練など）したいです。

●責任者の感想

参加者からは大震災を風化させない為、節目で開催を願う声がありました。西宮市から、パネル写真や指定避難所のパネル貸し出し、冊子の作成・協力、消防署からAEDの貸し出し、土木事務所から復興工事期間などの情報提供等、多数の関連部署の応援を得て実施する事が出来ました。お礼申し上げます。